

どんな人にも「コミュニケーションは生きる力」



【公式】『桜色の風が吹く』ポスター

映画『桜色の風が吹く』公式サイトより引用

「盲ろう者」について、どれだけの人が理解をしているだろう。厚生労働省によると、日本では、視覚障害者が約31万人、聴覚・言語障害者が約36万人おり、視覚障害者と聴覚障害者を併せ有する「盲ろう者」は約2万人存在すると言われている(平成18年度身体障害児・者実態調査)。

「盲ろう者」と言えば、ヘレン・ケラーを想像するが、私は実際に盲ろう者の方と接したことはない。自分を含め、そのような境遇の人が多いように思う。

そんな私たちが「盲ろう者」について知る良いきっかけとなる映画が近日公開された。「桜色の風が吹く」という題名のこの映画は、実在している福島智氏の半生を描いた実話である。福島氏は83年に東京都立大学に合格し、盲ろう者として日本初の大学進学をされた。2008年より東京大学先端科学技術研究センター教授に就かれ、盲ろう者と

しては世界で初めて大学のフルタイム教員となった。全国盲ろう者協会理事、世界盲ろう者連盟アジア地域代表(2022年10月まで5期)を務められたという、輝かしい経歴をお持ちだが、その半生は私たちが想像を絶するような体験の連続であったことが、映画を通して読み取れる。3歳で目の障害が発覚し、9歳で全盲となった福島氏。本人は幼少期だったからか、見えなくなっても音の世界で順応することはできていたものの、14歳から18歳にかけて徐々に失聴していった時の苦しみや悲しみがリアルに描かれている。そんな中でも、福島氏は点字を使って本を読んだり、指点字を使って他者とコミュニケーションをとることにより救われることになった。福島氏は、「人はコミュニケーションなしでは生きられない」と述べている。この言葉は盲ろう者に限らず、重複障害者や重度の障害のある人でもいえるのではないだろうか。障害のある人の支援を行うのは重労働であり、それに加えて支援者がいくら働きかけを行っても、応答が乏しかったり、反応がなかったりすることから、心が折れそうになる時もあると思う。しかし、福島氏が主張しているように「人はコミュニケーションなしでは生きられない」ということから、彼らにとっては支援者からのコミュニケーションを生きる喜びとして受容し、何かしらの形で表出しようとしているのではないか。それを知った上で障害のある人と接すると、障害者への理解が深まり世の中の障害者に対する見方も変わってくるのではないだろうか、と私は思う。

<参考文献>

・「盲ろう者とは」特定非営利活動法人(認定 NPO 法人)東京盲ろう者友の会 東京都盲ろう者支援センター

[盲ろう者とは « 東京盲ろう者友の会 | 東京都盲ろう者支援センター \(tokyo-db.or.jp\)](http://tokyo-db.or.jp)

(令和 4 年 11 月 28 日閲覧)

・松本 卓也「人類初、盲ろうの大学教授・福島智が語る『コミュニケーションこそ光』
本人がモデルの映画『桜色の風が吹く』が公開中」nippon.com.

[人類初、盲ろうの大学教授・福島智が語る「コミュニケーションこそ光」 本人がモデル
の映画『桜色の風が咲く』が公開中 | nippon.com](http://nippon.com)(令和 4 年 11 月 28 日閲覧)

・映画『桜色の風が吹く』公式サイト

[映画『桜色の風が咲く』公式サイト \(gaga.ne.jp\)](http://gaga.ne.jp)(令和 4 年 12 月 20 日閲覧)